

第2回部会（H29.9.22）における主な意見

【地域コミュニティ・保健福祉部会】

資料3

NO	主な意見	対応
1	<p>鶴見区まちづくりセンターと区役所とは、きちんと連携が図れているのか？まちづくりセンターを補佐的な役割と捉えている地域もある。</p> <p>そもそもまちづくりセンターは地域支援、地域の組織支援、地域の活力支援、地域の自律支援を行うのではないか？</p>	<p>区役所とまちづくりセンターは、各地域の自律的な地域運営を進めるため、週1回の定例ミーティングにより、各地域の状況について情報共有を図り、連携した支援を行っている。</p> <p>今後とも引き続き、しっかり連携を図りながら、各地域の特性に応じた支援を行っていく。</p>
2	<p>ボランティアのことをもう少し掘り下げて区役所で検討したり、よその地域、よその市町村を見ていただいて、鶴見区とどう違うのかというところも含めて考える必要があるのではないか？</p>	<p>区役所では、鶴見区まちづくりセンターと共に、「鶴探～大人の社会見学～」や「つるばた会議」を開催するなど新たな担い手の発掘に向けた取組みを実施してきた。</p> <p>また今年度は、防災をテーマにした「ツルラボ」（鶴見区地域活動研究会）を開催し、各地域の取組みや他区の事例紹介などの取組みも行ってきたところである。</p> <p>今後、まちづくりを促進する専門知識を持つ大阪市地域公共人材を活用するなど様々な観点から取り組んでいく予定である。</p>

NO	主な意見	対応
3	<p>区の福祉事業は、全般的に区社協が担っている分野が非常に多い。区社協と区役所が、どういう関係でどう補完しあっているのか。</p> <p>つなげ隊やCSW、コーディネーターが入って主に活動しているのは区社協だが、もっと実態に合ったものにしていこうすると、地域活動支援課あたりがどんどん地域に入っていかないと無理だと思う。</p>	<p>区役所と区社協は、地域福祉活動の支援にかかる連携協定書を締結し、地域福祉の将来的な展望を共有し、連携協働し地域福祉の推進に取組んでいる。また、実際に、事業ごとの会議や連絡会等に参加し、意見交換や情報共有を図るなど連携を密にしながら事業を進めている。</p> <p>区役所内の連携として、地域活動支援課と保健福祉課を兼務する係長を配置しているとともに、区政会議のご意見も踏まえ、地域健康福祉戦略会議を設置し、両課に加え、まちづくりセンター・区社協・地域包括以遠センターで情報共有を図りつつ取組む体制となっている。引き続き両課で情報共有・連携をとて事業を進めてまいりたい。</p>
4	<p>要援護者の名簿は、地域ではどのように活用されているのか検証をしているのか。</p> <p>要援護者の見守りもほとんどの地域では、地域包括支援センターか区社協がやっている。地域福祉は、本来は地域がすべきであり、結果的に地域のためになる。地域にやってもらうように、区から言うべきである。</p>	<p>各地域の取り組み状況については、区役所・区社協ともに情報共有を図り、把握できているものと考えている。</p> <p>そのため、今後の名簿の活用については、これまであまり関わていなかつた障がい者への取組みを強化しつつ、またそれ以外についても、いろいろな機会に地域に出向き、地域の実情に応じた連携・支援が図れるように区社協と話しをしつつ取組んでまいりたい。</p>

NO	主な意見	対 応
5	<p>今の動き方は、単年度で動いているわけだから、福祉に関しては、将来的な目標を出して動いていかないといけない。</p> <p>様々な課題や問題もあることから、今の状態では残念だと思う。</p>	<p>大阪市全体として、高齢者福祉計画、障がい者支援計画、地域福祉の計画などの計画があり、3～5年ごとにその見直しを行っており、鶴見区でも市の計画を踏まえつつ、区の実情にあった鶴見区地域保健福祉ビジョンを策定し進めている。今後、区のあり方の問題もあるが、市の計画も踏まえ、地域の実情に沿った見直しをしながら進めてまいりたい。</p>
6	<p>老人会もそうだが、地域でもネットワーク委員やふれあい員等が高齢化し、次の担い手がなかなかいない。このままではせっかく良い仕組みが衰退し崩れてしまう。そのため、区役所で担い手養成のための講座のようなものができないか。</p>	<p>保健福祉センターでは、健康づくりや食育など各種講座を実施しており、講座の受講者が地域のボランティアとして活動いただく取組みを行っており、引き続き必要であれば行っていきたいと思っている。</p> <p>また、住民主体のネットワーク活動推進事業において、あいまちの周知啓発の講演会をはじめ、活動者や活動に興味のある方にむけた講習会など地域福祉活動の担い手の育成等のための事業もおこなっており、引き続き有効な啓発や講座の開催などを検討してまいりたい。</p>

NO	主な意見	対 応
7	<p>健康づくりは自己管理ではあるが、健康だと思っている人にも参加してもらう企画が必要である。事業に1回参加しただけで終わるのではなく、継続してもらえるための工夫が必要であり、表彰制度や参加賞などの景品など、また、ウォーキング・毎年健診を受けている・事業に参加したなど健康に関するもの全般に対するのポイントが良い。</p>	<p>年に1回のイベントに加え、地域で継続できる環境整備にも取り組んでまいります。また、ご意見をいただいた参加者を増やすための取り組みとして『健康づくりポイント制度』等については、他都市や他区の取り組み事例を参考に検討してまいります。</p>